

学校を核とした『共学共創コミュニティ(GIAHS Co-Learning Community)』の形成

【研究開発の背景】

Global（2014～ スーパーグローバルハイスクール事業）

○研究開発の概要： 中山間地域に位置する本校でグローバル・リーダー育成に向けた教育を展開するために、本校の特徴（6カ年教育カリキュラムの編成、探究活動の実践、全寮制教育など）と、国際社会に散在する課題が山積みされた中山間地域の強みを活かして、国内外の関係機関と連携を図りながら課題研究を軸とした研究開発を行う。

○SGH事業の成果： 社会実践を伴った課題研究活動の展開、探究的な学びを生み出す6カ年教育カリキュラムの開発、海外フィールドワークの実施 など

【令和3年度 研究開発の目標】

地域との協働による探究的な学びの自走的な取組

重点項目(1) 総合的な探究の時間の拡がり

- GIAHS地域をフィールドとした探究活動
- コンソーシアム構成員と生徒との自走的な実践活動
- 評価（形成的アセスメント）の実施・分析

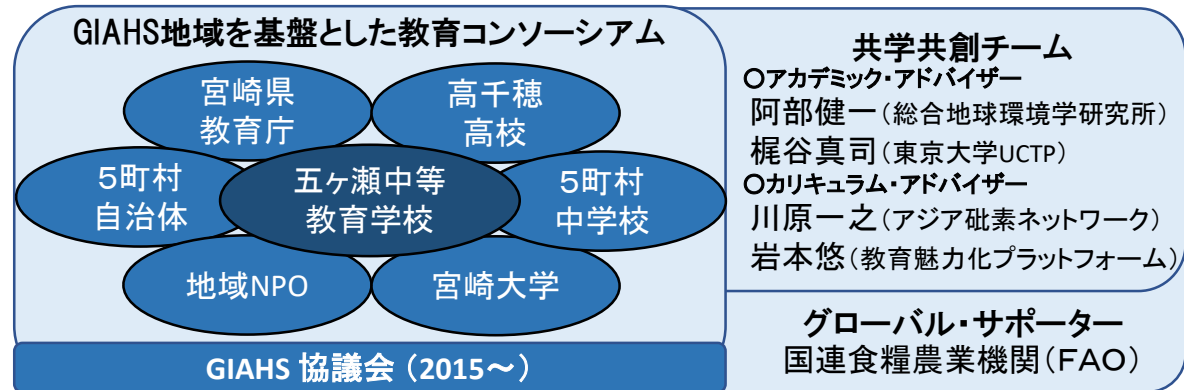
重点項目(2) コロナ渦における海外フィールドワークの発展

- コロナ渦における国内代替案の模索
- 「世界農業遺産世界会議2021」ユースセッション参加（コンソーシアム支援）

重点項目(3) 事業終了後を見据えた自走的な取組

- 「GIAHSシンポジウム」の実施（コンソーシアム支援）
- 「English Day」（オンライン）の実施（国連大学支援・地域協働連携校参加）
- 「伴走支援サポーターバンク」設立計画（本校同窓会による支援）

【研究開発の実施体制】



【令和3年度 成果と課題】

★成果

- ・ICT活用による探究協働の拡がり（総合探究）
- ・生徒の自走的かつ協働的な探究活動（総合探究）
- ・教員による教科横断的学習の持続化（総合探究）
- ・地域との協働による「共学」の実現（地域協働）

★課題

- ・新学習指導要領を踏まえた教科横断的学習の可視化並びに体系化（総合探究）
- ・評価（形成的アセスメント）のより効果的な活用方法（総合探究）

高校魅力化評価システムより抜粋（R2）

学習活動の機会	本校	他地域
主体性に係る機会	71.5%	50.2%
協働性に係る機会	89.3%	73.9%
探究性に係る機会	85.5%	68.8%
社会性に係る機会	85.7%	54.1%

各項目の設定で「あてはまる」と回答した生徒の割合 ※他地域とは事業指定校を指す

Local（1986～フォレストピア構想，2015～ 世界農業遺産認定）

○フォレストピア構想： 県北5町村による「フォレストピア圏域」において、森林が持つ様々な機能と山村固有の伝統的な生活文化を活かし、人間性回復の森林づくりを目指すもの。五ヶ瀬町は「学びの森」に指定され、本校はその拠点校として位置づけられている。

○世界農業遺産 GIAHS：社会や環境に適応しながら時代を通して継承されてきた独自性のある農林業と、それに密接に関わって育まれた人々の暮らしや文化を含む「山間地農林業複合システム」について、国連食糧農業機関によって認定されたもの。